



全国学力・学習状況調査からみえてきたもの(その1)

今年度4月、3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」として「教科に関する調査」(国・数・英)と「生徒質問紙調査」を実施しました。その集計結果からみられる本校生徒の特徴について報告します。本日3年生の生徒に結果を返却しましたので、個々の学習状況やそれぞれの教科・領域の理解度についてご確認いただき、今後の学習や生活に活かしてください。

【全国学力・学習状況調査「教科に関する調査」の結果について】

(1) 本校の平均正解率

- ・数学・英語の2教科は、全国平均正答率と比較し「ほぼ同じ」という結果になりました。
- ・国語は、全国平均正答率と比較し「やや下回る」という結果になりました。

(2) 「教科に関する調査」から見られる本校の特徴

- ① 概ね全国平均正答率と傾向は変わらない。
- ② 無回答(解答していない空白状態)率が極めて低い。
- ③ 著しく正答率が高い・低い領域はない

○ 3教科の内、数学と英語は全国平均とほぼ同じ結果となりました。国語は全国平均をやや下回る結果となりましたが、問題によっては全国の正答率を上回る設問もありました。また、どの教科も無回答(解答していない空白状態)率が、極めて低い傾向がみられました。このことは、「あきらめずに最後まで取り組むことができる」という本校の最大の強みであると思います。3年生には、粘り強く考えることの大切さを、これからも持ち続けることができるように働きかけ、1、2年生には本校の良き伝統として引き継げるようにしていきたいと考えます。今後、各教科の授業で弱点を補強する工夫を行うとともに、生徒一人ひとりが思考し、問題解決を図る場面を設定した授業を重視していきます。また、全教科において、各自のめあてと振り返りをしっかりと行い、ICTも活用しながら学びを深めてまいります。

○【国語科】に関しては、知識・技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の3領域とも、全国平均を下回る結果となりました。特に「我が国の言語文化に関する事項」(いわゆる古典教材)については、苦手意識や知識・技能面での課題がみられました。基本的な学習事項の定着について、繰り返しの学習や復習などを授業時間において改めて取り組んでいきたいと思えます。一方で、知識・技能の問題によっては全国平均の正解率を上回るものもいくつかありました。

思考力・判断力・表現力についても、「書くこと」等が全国平均を下回るという結果になりました。そこからは、適切な語句や表現を用いて、問題の意図を的確に文章として表現する力が低いことがみうけられます。授業の中で、文章をしっかりと整える力をつけ、学習言語に対する語彙を増やしていくことが必要と考えます。

生徒質問紙調査の国語科に関する質問からは、90パーセント以上の生徒が国語の勉強を大切だと考え、社会に出た時に役立てられるように学習に取り組んでいることがわかります。また、無回答率が低い状況からも意欲的に学習に取り組もうとしている姿が伺えます。生徒の学習意欲を大切にしつつ達成感を持たせられるように指導していきたいと考えます。

○【数学科】に関しては、全体として全国平均正解率とほぼ同じ(少しだけ上回った)結果となりました。4領域のうち、「データの活用」は全国平均正解率をかなり上回る好結果が得られました。2年時に比べ計算の力量が高まったことは、継続的に個別に課題をチェックし、繰り返し練習させてきた成果といえます。また、「図形」「データの活用」の領域では、証明や説明の際の押さえるべきポイ

ントを授業ではっきり提示し、生徒同士で自分たちの解答を確認する等の手立てが生徒の学力の定着につながったと考えられます。その一方で、「関数」の領域が弱い傾向がみられました。グラフからの読み取りの問題はある程度できるようになっていますが、関数に関する知識が不十分なことによる誤りが多いので、今後の学習で再度日常にある事象を関数と結び付けて捉えられる授業を計画していく予定です。また、ふりかえりシートを活用することにより、授業で学んだことを端的にまとめる力についてはついてきていますが、長い文章問題を正しく読み取ることは苦手であるため、要点を押さえて読み取る練習も入れていきたいと思えます。

質問紙調査の数学科に関する質問では、「数学の勉強は好き」「数学の勉強は大切だと思う」「数学の授業の内容はよくわかる」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」に、当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた生徒は全国平均より高い結果となりました。

家庭学習状況については、昨年度より、宿題として次時の授業の予習を課しています。生徒から授業の内容が理解しやすくなったという感想を聞いているため、今後も続けていく予定です。さらに家庭で、学んで e-net の動画やドリルパーク等を活用して個人に合った復習をできるようにしていきます。

○【英語科】に関しては、全体として全国平均正解率とほぼ同じ結果となりました。わずかな差ですが「聞くこと」は全国平均正答率よりも少し上回り、「読むこと」「書くこと」「話すこと」は少し下回りました。「聞くこと」については、授業において YEF（外国人英語指導員）がほぼ英語で授業を行い、まとまった情報を聞き取る内容理解に力を入れたことや、聞くことに関するポイントを繰り返し授業で教えた成果と思われる。

一方で、「思考力・判断力・表現力」においては全国平均を少し下回り、「記述」の問題では学習した内容をアウトプットすることが苦手な生徒が多い傾向がみられました。「話すこと」についても、場面において活用できる能力に課題がみられました。今後は、授業で学習事項を用いて自分自身の考えを英語で表現できる実践的なコミュニケーション能力の育成に努めたいと思えます。また、「お勧めしたい場所」など、示されたテーマに沿ってまとまりのある文章を書く練習を取り入れ、インプットしたことをアウトプットする機会を今後増やしていきたいと思えます。

生徒質問紙調査の国語科に関する質問からは、約 90 パーセントの生徒が「英語の勉強は大切だ」と考え、無回答率が低い状況からも意欲的に学習に取り組もうとしている姿が伺えます。英語で表現することが楽しいと思えるような指導を心がけ、今回課題となったアウトプットする力の育成に尽力していきたいと思えます。また、家庭学習課題として、英語で人に説明したり、自分の考えを英語で表現したりする課題を出していきたいと思えます。

○今回の調査結果を真摯に受け止め、本校の強みはさらに伸ばし、弱みについては、本校の「研修委員会」を中心に PDCA サイクルを重視して、授業研究・授業改善に取り組んでいきたいと思えます。さらに、各授業の「めあて」「振り返り」を重視するとともに ICT も積極的に活用しながら、生徒の学習意欲や学習理解がさらに深まるよう努力してまいります。

※全国学力・学習状況調査の「生徒質問紙調査」結果につきましては、「ささぶね（第9号）」にて、ご報告させていただきます。